

私は一九七三〜七四のガバナ  
ーとして当三五〇地区の皆様と  
心からのお付合を頂き、ローカ  
ルクラブとしての色々の問題ま  
たは悩みなどを拝聴させて頂い  
た中で非常に印象的であったこ  
とは、道北、公式訪問中（豊富ク  
ラブ、会員数二五名）のクラブ  
で畜産業の後継者の花嫁問題で  
あった。町、クラブともに挙げ  
て問題の解決に全力を挙げてい  
る状況の説明を受けましたが、  
当面、激励の言葉を申し述べ  
より術のない私であったが先日  
新聞にて色々と秘策を練った結  
果、幾組かのカップルが成立し  
た記事を見て豊富クラブ（町当  
局者ともに）の地味な活躍がよ  
うやく突りつつあることを想起  
し、心温まる思いを感じると同  
時に、心から拍手を送りたい気  
持ちであった。

新聞の記事の要点は『同町の  
農村花嫁募集作戦は四十八年  
春、ある女性週刊誌に出した花  
嫁募集の投書がきっかけにな  
り、広々とした大地での酪農風

景にあこがれて本州、四国、九  
州から希望者が殺到、町内農村  
部の独身男性の二倍にあたる百  
四、五十人にも達した。しかし  
実際に実を結んだのは八組、縁  
組の決まっている「予定者」を  
入れても十組でしかなく……。

## ローカルクラブのこと



根室 中林 啓次

これらの経験をふまえて新た  
に取り上げられたのが、長期の  
作業実習方式。今年三月、再び  
雑誌に「女性に作業を手伝って  
ほしい酪農家があります。でき  
れば花嫁候補として考えて下さ  
る方を」との投書をのせ、これま

でに八十九人からの問い合わせ  
が同役場に寄せられた。この中  
から十七人を選び、受入れるこ  
とに決め、すでに数人が現地入  
りして作業を始めている……』  
であり、相談員が媒酌人として  
の結婚式典模様の写真が添付さ  
れていた。ロータリークラブは  
シンプルなものであり、その地  
域に対するサービス即ち地域性  
を生かしてのクラブであらねば  
ならないと常に教えられるとこ  
ろであり、また各奉仕委員会構  
成などもややもするとマンネリ  
化し画一的になり地域性を失っ  
たものは、ロータリークラブの  
本質から離れたものとなるであ  
ろう。

このような現象は単に第三五  
〇地区にのみ存在するものでも  
なからうし、また高度成長経済  
の歪みの結果と片付けられない  
色々な社会問題が生じまた生じ  
るのであると考えられるが、と  
もあれ豊富クラブの健闘を心か  
ら祈ってやまない。